

～ 最善の行動と信頼 ～
医療法人 同和会 千葉病院



【病院概要】

- 診療科
精神科・神経科・神経内科（要予約）・歯科（要予約）
- 院長
鈴木洋文
- 外来診療時間
平日9:00～12:30（月曜日のみ9:30～12:30）
土曜日9:00～12:30（午後は予約制）
- 休日
木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日（創立記念日）
- 所在地
〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-508
Tel: 047-466-2176 Fax: 047-466-7503
ホームページ: //www.chiba-hp.on.arena.ne.jp
- 敷地面積
6,638㎡
- 建物面積
11,026㎡
- 病床数
346床
- 施設基準等
・（社）日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
・（財）日本医療機能評価機構認定病院
・精神科急性期治療棟入院料1（55床）
・精神科療養病棟入院料（291床）
・精神科作業療法施設
・精神科デイ・ケア施設
・入院時食事療養（I）
・栄養管理実施加算
・診療録管理体制加算
・臨床研修病院入院診療加算
・精神保健福祉法措置指定病院（9床）
・応急入院指定病院
・医療観察法指定通院医療機関
・医療観察法鑑定入院医療機関



千葉病院広報紙 2011. 盛夏号（第34号） 発行者 医療法人同和会 千葉病院

千葉病院では毎年、8月の第1水曜日に盆おどりを行っています。入院されている患者さんに楽しんでいただくのはもちろんですが、地域の方々にも参加して喜んでいただけるようにかき氷や焼きそばなどの模擬店や太鼓の演奏、南中ソーラン節の演舞などの各種イベントも予定しております。
是非、ご家族やお知り合いをお誘い合わせのうえお越し下さい。スタッフ一同心よりお待ちしております。

千葉病院レク委員会より

日時：8月3日（水）18：00～
会場：同和会千葉病院 お祭り広場

近隣の皆様には、音楽などでご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承ください

安心、そして安らぎのある暮らしを・・・

高根台メンタルクリニック

所 長：赤川 和弘
 診療科目：心療内科・精神科・神経科・内科・シルバーケア
 診療時間：午前 9:00～12:00（受付11:30まで） 午後14:00～17:00（受付16:30まで）
 ※初診の方はご予約となります。
 休 診 日：火曜・日曜・祝祭日・年末年始
 住 所：船橋市高根台1-2-2 プラザ街2F（新京成高根公園駅より徒歩2分）
 電 話：047-468-6806 F A X：047-468-6809
 ※在宅医療にも取り組んでいます。お気軽にご相談ください。

心の健康について一緒に考えましょう。私たちはこれまでの経験を生かして、皆様の身近なところで気軽に相談できる心のクリニックを目指しています。

こころの健康クリニック津田沼

所 長：福井 進
 診療科目：精神科・心療内科
 診療時間：午前 9:30～12:00（受付11:30まで） 午後14:00～17:30（受付17:00まで）
 休 診 日：木曜・日曜・祝祭日・年末年始
 住 所：船橋市前原西2-13-13 大塚ビル4階（JR津田沼駅北口より徒歩2分）
 電 話：047-455-7300 ホームページ：http://www17.ocn.ne.jp/~mhct
 当クリニックではご家族の方の相談に医師・スタッフが対応します。1人で悩まずに、お気軽にご相談ください。

神経内科は脳や脊髄、末梢神経、筋肉の病気を扱います。頭痛、目まい、脳梗塞などをはじめ多彩な神経疾患の症状に悩む多くの方にとって、とても身近な専門領域になります。

神経内科津田沼

所 長：服部 孝道
 診察医師：服部 孝道・栗原 照幸・水谷 智彦・湯浅 龍彦・神田 利政
 診療科目：神経内科、脳ドック
 診療時間：午前 9:00～12:00 午後14:00～17:00
 休 診 日：木曜・日曜・祝祭日・年末年始 ホームページ：shinkeinaika-tor.jp/index.html
 住 所：船橋市前原西2-14-15 榊原ビル7階（JR津田沼駅北口より徒歩1分）
 電 話：047-470-0500 F A X：047-470-0511

千葉病院 患者様の権利
 ①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
 ②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
 ③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申し立てることができます。
 ④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
 ⑤職員から思想・信条・宗教、および個人的関係は強制されません。
 ⑥個人情報保護されます。

発行：医療法人同和会 千葉病院
 発行日：平成23年7月31日
 住 所：千葉県船橋市飯山満町2-508
 Tel. 047-466-2176 Fax 047-466-7503
 URL://www.chiba-hp.on.arena.ne.jp/



盆おどりを開催します



去年の盆おどりの様子。左上より、浴衣姿の病院スタッフ、会場全景、鈴木院長のあいさつ。左下より、太鼓の演奏、ソーラン節演舞。

第二次災害医療支援チーム報告



東日本大震災による、被災地への医療支援活動として、気仙沼市の「光ヶ丘保養園」へ支援チームを派遣することになりました。当院では、小松副院長をリーダーとする第一陣(4月5日～11日)に続いて、5月9日～15日に、横山医長はじめ4人の職員が医療支援活動を行いました。

(支援チーム第二陣スタッフ。左から錦織看護師、横山医長、富塚PSW、事務坂入)

千葉病院を出発して約6時間が過ぎ、一関インターを降りる。これからまだ2時間弱、気仙沼は仙台からさえ約3時間もかかる、いやはや不便なところである。インターを降りてからは牧歌的な風景が延々と続く。気仙沼市内まで数kmの所で、トイレ休憩。車の中で休んでいる人、放置された車がちらほら。「何かにおいますね」と言われ、確かにヘドロの匂い、いよいよかと緊張が高まる。気仙沼に入り、言われたトンネルを抜け、右側に目をやると情景は一変する。みたことのない光景、瓦礫の山、対照的に道路の左側は全く普通の光景。津波が来たところは、破壊されつくし、到達しなかった所は全く無傷、まさに天国と地獄である。病院に行くために川沿いの道を走ると、船やボロボロのタンクローリー、トラックや自家用車が川に転がっている。川岸は破壊された家、積み上がった瓦礫の山、やたらと交通誘導員、瓦礫撤去作業をしている人が目につく。



派遣先の「光ヶ丘保養園」周辺の様子

左写真:4月上旬。当院支援部隊第一陣スタッフ撮影。
右写真:5月上旬。第二陣スタッフ撮影
下写真:園からほど近い道路に横たわる漁船



そして、瓦礫の向こうに光ヶ丘保養園が…。車を降りると、どこかでかいだ匂い。「そうか、これはタイで嗅いだ事がある、ナンブラー(魚油)の匂いだ」と妙な納得をすると、それほど気にならなくなった。病院に着くと、奥山園長、新階医師らが出迎えてくれる。やたらと明るい感じで出迎えられ、やや拍子抜けする。園長は「千葉病院が一番大変な時に真っ先に来てくれた。感謝している」とおっしゃってくれた。1ヶ月前に第一班が来たときと比べ、ずいぶんとライフラインは回復したようである。発電機を使っていた電気は、供給されるようになり、水道も来ている。食事も二食+おやつが食べきれないほど毎日出る、さらに車で10分ほどのコンビニは、品ぞろいも十分である。(中略)

被災地の方はこれからが、大変である。今はいわゆるハネムーン期なのか、表面的には暗さを感じず、むしろ軽そうのくにさえ感じる人が多かった。これから、幻滅期、回復期を迎えるなかで、支援をし続けることが必要だと思う。

(横山大輔医長:職員院内報告より引用抜粋)

編集後記

今回は変則紙面のため、編集後記がこの場所に移動しました。今号では、前号から続く、東日本大震災の被災地支援活動報告やMRI導入のご案内などを掲載しています。また、当院夏のイベント「盆おどり」も間近に迫ってきました。皆様のご参加をお待ちしております。

ここは千葉病院の活動を紹介するコーナーです

MRIを設置しました

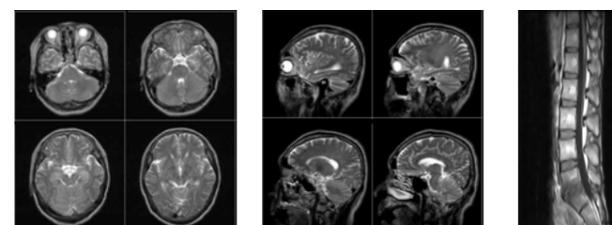
このたび、当院に日立メディコ社製のAIRIS Ventoという装置が設置され、4月から稼働しました。

この装置は0.3T(テスラ)の永久磁石で画質、快適性を向上させたMRIで、開口部を大きく広げて狭いところが苦手な患者さまでも検査できるように工夫されています。

MRIとは、磁石でできた機械の中に入り、強い磁場と電波を利用して体の内部を撮像する磁気共鳴診断装置です。

MRIの特長としては、放射線を用いないので“被曝”が一切ありません。また、人体をさまざまな方向から精度の高い画像で見ることができ、脳や脊髄、内臓などいろいろな部位の病気の早期発見、診断にMRIは広く用いられています。

ただ、MRIは磁石や電波を利用しているため、心臓ペースメーカーや非MRI対応の体内金属を使用している場合は検査できません。



左写真:当院のMRI(日立メディコ社製AIRIS Vento)と、担当の小田倉技師
上写真:MRIで撮像した画像(例)
左から、頭部水平断像、頭部矢状断像、脊椎矢状断像

まずは医師による診察を受け、そのうえで撮像することになります。詳しくはお電話にてお問い合わせください。 千葉病院TEL: 047-466-2176

千葉病院Drによる医療コラム 第7回

うつの治療

千葉病院医師 浅香 琢也

うつの治療は大きく分けて、三つの側面があります。

第一に、休養です。

うつ病の原因は不詳ですが、過労、心労のストレスが引き金になることも少なくないといわれ、患者様は大変疲れている方が大勢おられます。さらに、うつ病の症状には、不眠、食欲不振、強い悲しみなど、激しいつらい体験が続くため、多くの患者様は病気自体のためにヘトヘトに疲れ切ってしまわれます。

疲労が募ることによって、更にうつ病が悪化する恐れもありますし、体力が衰弱して、全く別の病気が合併する危険も高まります。疲労を軽減することを、もっとも優先すべきです。

疲労は、薬や手術などによって取り去ることはできません。休養するしかないのですが、うつ病の方の場合、その症状などのため、休養しようとしてもうまく休養できないという方が多くいらっしゃいます。

そこで、上手く休養をとるために必要になってくるのが、第二、第三の要素である、薬物と環境調整です。

治療のための薬物には抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬、気分安定薬、抗精神病薬などを用います。うつ病の症状には強い不安感、焦燥感、悲哀感などがあり、例えば布団の中で横になっていても気持ちがまったくくつろがず、眠れないといった方も少なくありません。薬を飲むのは、そういった症状を抑え、休養の準備を整えるためです。

抗うつ剤を飲むと元気になる、と考える方もおられますが、休養の為に飲む薬なので、むしろ眠くなったりだるくなったりと、一見元気がなくなったかのような作用が出る場合があります。

しかし、薬が効いて、からだがか休養できる態勢になっても、環境がそれを許さない状態では、十分な休養はできません。

休職や、時には入院などの環境調整が必要になります。休養には、これという形はありません。患者様によって、一人一人、休養の仕方は大きく異なります。その方が、くつろいだ気持ちになって、こころに余裕もって、ぬくもり、おかしみ、そんなやわらかくあたたかいものをじんわり味わうことができる、休養とはそういう状態になることです。だから、ある人は一日中横になって休養されますし、むしろある程度スポーツなど楽しむことが休養になる人もいます。人によっては、程々に責任のある仕事などをやりがいを持って続けることが良い方もいます。それぞれの方にとって、より良い環境を考え、調整を工夫することは、患者様とご家族、そして主治医が協力して行なっていきます。